

平成 30 年度第 1 回阿南町総合教育会議議事録

日 時：平成 30 年 8 月 29 日（水） 13 時 10 分から 15 時 05 分

場 所： 阿南町役場第一会議室

平成 30 年度第 1 回阿南町総合教育会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
 - (1) 町長
 - (2) 教育長
- 3 意見交換
 - (1) 少子化・人口減少地域に対応した学校・教育環境のあり方と方向性について
 - (2) 学校における I C T 教育について
 - (3) その他
- 4 閉 会

《出席構成員》

町 長	勝 野 一 成
教育長	南 嶋 俊 三
教育長職務代理	金 田 修
教育委員	猪 切 信 子
教育委員	大 倉 康 夫
教育委員	林 一 仁

《事務局》

総務課長	松 澤 享
総務課行政係長	伊 藤 恒

《出席職員》

教育委員会事務局長	岡 田 六 久
〃 子ども教育係長	村 山 俊 行
〃 社会教育係長	大 平 正 章

1 開 会

<13 時 10 分>

○ 司会 松澤総務課長

それでは定刻となりましたので、これから平成 30 年度第 1 回阿南町総合教育会議ということで開催します。最初に勝野阿南町長よりあいさつをいただきます。

○ 勝野町長

今日まだ暑い日が続いておるわけですが、総合教育会議ということで教育委員の皆様をはじめ、皆様にご指導いただきましてありがとうございます。既に皆さんご承知なんです、難しい問題ばかりでありまして、今年の夏は暑くて、議会の一般質問にも熱い話が出ておりまして、やった中で町もいろいろなことに対応していかなくやならない訳ですが、いろいろな観点からまた解決していかなくやならないので、皆様のご協力をいただきますようお願いしまして、私のあいさつとします。

○ 司会 松澤総務課長

続きまして南嶋教育長よりあいさつをいただきます。

○ 南嶋教育長

みなさまご苦労さまです。今町長短くあいさつされましたので、それでは長くあいさつしたいと思います。

それこそ今のあいさつのように残暑厳しくある訳でございますが、何度かお話ししましたが、こんな時期に古今和歌集の藤原敏行の歌を思い出すわけですが、どんな歌かといいますと、「秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる」という歌なんだけど、これは残暑厳しい中で直射日光とかそんな暑さを感じるんだけど、その中でほほを伝う風に会って、やはり秋の気配を感じるというような歌でございます。ぜひこんな歌のようなゆとりを持った毎日を過ごしたいなあと、最近感じるところでございます。この夏の話ですが、いつにない異常気象ということですが、特に熱中症という言葉は毎日のように、聞かない日はないというくらいに出てきております。昨日も岐阜県で5人が無くなったというニュースが報道されていました。そんな話を聞く中で、7月半ばの1週間を見た時に、熱中症が全国で1週間に22,647人の方が搬送されて、65人が無くなった。その中に中学生が1人含まれていたわけですが、そんな異常な猛暑が続いています。もう一つは台風なんです、皆さんもご存じのように7月の12号台風ですが、太平洋で発生して北に行き、進路を変えて今度は西寄りに行く。今までの台風は、ずっと南から北へ上がって、ずっと東の方へ行きましたが、今年のところは、西へ行って今度は南下して、鹿児島でも停滞してというようなコースを見ると、ホントに異常だなというように感じます。この台風も、戦前あたりでは49号とか、そういうような個数発生をしていたが、戦後では、昭和42年の39号というのがありまして、昔に比べれば少なくなったなあとということがあがあるが、近年においては多くなったなあとということが言えるとおもいます。いずれにしても、猛暑とか台風についてもこの阿南町においても、いつそういう災難に合うかわかりませんので、防災意識というのでも検討しなきゃいけないんだけど、子どもを預かる教育委員会としては、子どもを守りながらこんなことを思っておかには、いけないかなあと考えています。9月1日がだいたい二百間十日があたりますが、この二百十日前後が台風が一番多いと言われていています。そしてまた学校・保護者・行政等も連絡を取りながらよろしくお願いしたいと思います。

さて、本総合教育会議でございますが、ちょっと復習をしたいと思います、平成27年4月1日から地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正ということで、この教育会議も4つの中の1つ、4つは教育長が責任を取ることということ、そして総合教育会議、もう1つは教育委員会のあり方、4つめは教育方針についての大綱を作れということというのが法律改正のところなんです。その中で、総合教育会議は今までは独立して首長部局と教育委員会部局でやってきたが、やはり責任を含めて、首長が全てを把握していかなくやいかんだろうということと、教育委員会との協議調整という意味で、総合教育会議をやりながら、教育にご尽力頂ければありがたいかなあとということで、「国家百年の計は教育にあり、教育は国家百年の体系だ」というようなことで、教育に関してはやったからといってすぐ結果が出るわけじゃなくて、百年かかるということでございま

すので、地道に努力していく必要があるかなあとと思いますし、また行政の方にも長い目で見て、将来の阿南町を担う若者を育てることに尽力いただければありがたいかなあというふうに思います。急な社会の変会に対応するため、この後にあるますけどICTをはじめ、日進月歩、急激な変化に激しいそれについていくのが非常に困難だと思っているわけですが、阿南町の基本的な子供たちの基になるところは、自分で考えて動けるようなそんな子どもを作ることが大切だなあとと思いますし、学習新指導要領にもありますように、「主体的・対話的な深い学び」というものがあって、それに繋がるものが阿南町の考動力であるというふうに思う。一般的にアクティブ・ラーニングという言葉を使っておりますが、そこにも考動力が繋がっているのだと思う。自慢ではないが先見の明があったのかなあと思うが、6年前に作ったわけですが、だから長い目で見いかんやならないと思う訳ですが、一方では今の子どもを見ていますと、少子化・核家族化で、非常に過保護的なものが強くなってきているので、親を見てみると、「手取り足取りおんぶにだっこ」そういう形で育てているので、やはり我慢はきかないし、忍耐力はないし、そんなところが鍛えていく必要があるかなあと、というようなことを思う訳でございます。最近の若者については、「きれるとかむかつくとか」そういうので、すぐ人を殺してしまうとかがニュースなどで出ている訳です。そんなところへはちょっと違う観点からですが、2・3歳で第一反抗期がある訳で、そして思春期で第二次反抗期がある訳で、その中間の5歳から小学校2・3年くらいまでの中間の反抗期、というようなものに注目しないと、耐える力とか我慢とか養っていけないし、自分で動ける力が養っていけないなあというのを、新聞で読んだ覚えがあります。ですので中間の反抗期、保育園から小学校ですが、そこら辺を大事にしていかなければならないかなあと最近思っています。先ほどの町長さんの話のように、いろんな課題があります。特にハード面の資金的な面でこれから大変だなあと思う訳ですが、計画的にお願いしていくつもりでおりますが、ぜひご協力いただきながらそしてまた総合教育会議で意見交換をしながら、前向きに子どもを育てていきたいと思っておりますのでそんなことでよろしくお願いします。

○ 司会 松澤総務課長

それではお手元のレジメに従いまして、意見交換に移りたいと思います。最初に(1)の少子・人口減少地域に対応した学校・教育環境のあり方と方向性についてですが、第7回教育環境のあり方検討委員会次第 内容については、教育委員会からご説明申し上げます。

○ 岡田事務局長

＜第7回教育環境のあり方検討委員会次第 内容 の資料に基づいて説明＞

○ 司会 松澤総務課長

それでは今事務局長から説明がありましたが、これに関してご意見・ご質問等がありましたらお願いします。内容等についても結構ですのでお願いいたします。

【意見】

○ 保育内容の充実とあるが、具体的にどういう内容であるか。

○ 細かい内容までは触れていなかったけど、保育園に必要な事という意味で、問いかけに対してこういうものがいいという意見だったと思われます。一般的にどこが欠けているとか、優れているとかそういうことじゃなくて。そういうものがいいということ。

○ 今現状で行くと、保育士さんは若い世代が多い。40代・50代がいない保育園は、経験が足りないのでは、もう少し専門的なものを問われているのかなあと思いますし、学校

の先生の中で、交流をしながら見えるという部分で、もう少し保育士さんに勉強してほしいと言う校長先生が話してくださったという事であると思います。

- 今の話の様に、保育士の資質の向上の話もあったが、その他にもソフト面・ハード面で、施設をこうしてもらいたいとか、保育士さんの人数を増やしてもらいたいとか、出ていたように思います。
- 片や保育園にお子さんを預けているお父さんたちは、これで満足していますのような話をしていたが、ただ預ければいいという保育園ではないと思うので、幼稚園的な部分の、親が子育てできない部分を求めている時代なので、今まで以上に保育士さんに勉強して頂いたりとか、専門的なことで親と対等に話をしたりとか、お父さんお母さんからいろいろなことを聞かれる保育士さんになってほしいという思いがあると思います。
- 先生たちもいろいろ忙しいので、子育てしていない時は、保育士さん面倒を見ているだけかと思っていたんですけど、思っているより大変なので、さあ勉強と言っても厳しい様であると思う。今言われたように、子育てをまだしていない若い先生は、見ても戸惑っている気はするんですけど、前から思うが学校の先生もそうですが、センス的なものがあって向いてないなと言うような方もいらっしゃるの、面接とかでただ採用していいのかなと思う。実習とか見といて採用しないともずいではないかと思う。
- 年齢的に40・50と言うところがいないというのが、対お父さん・対お母さんという以上に、先生たち同志で教わる部分と言うのが大きいので、40代・50代の経験のある人たちから「こんなふうにしたらいいいよ。」とか、「ここはどうかな。」とか出来て、作られていくものだと思うので、上の人達の正規の人たちがいないというのが痛いかなと思う。実際には家族と関わっている方で非正規雇用とか聞いたことがあるので。
- 正規でないというのはどういうことか。
- 臨時ということ。
- 阿南町の構成が良く知らないけど、年代的には30代前半から20代というところが圧倒的に多いのか。40代とかいないのか。
- 臨時とか嘱託とかはいっぱいいるんだけど、年配が。ただ臨時とか嘱託と言うのはあまり口出しできないんだよね。
- 嘱託の方は、保育士の免許とか無い方がいらっしやると思うので全部は。
- 委託をお願いしている方は、全て前にやっていた方々です。保育士の免許は持っています。延長とかで臨時をお願いしている方は、近くの一般の年配の方をお願いしています。
- いろいろな組織においては、若い者からいろいろいて、その中でその職場の中で同類性が発揮できる職場が理想的ですが、今言うように一番上が主任で36歳くらいのところでは、どちらかというと足を引っ張る方が多い。そう言うような傾向が強いのかと思っている。もう一つ資質の向上という面では、外から見ていて研修とかどんどんやればいいと思っているんだが、昨日も県単の先生を招いてやったり、大下条小学校の校長先生を呼んで話をしたり研修をしている。そしてまた郡の研修だとか、県の研修だとか色々出ているので、研修する場所はいくらでもある。そういう点では資質向上を図ってもら

えればいいかなと思っている。

- 彼女らはまだ親ではないですか。親と同じ目で子を見る必要があるのか、そんな必要はないのかという気がする。アスペルガーの親が親として見てほしいと言うんだったら、そちらの意識を変えないとという気がします。本来親がやるべきということをやるというのは少し違うような気がする。保育士と親は違うものだから、当然子どもの接し方に違いがあってしかるべきで、違いがあるべきだと思う。そういう人を採用する側で、どういう目で保育士を見ればいいのかの課題は問われるかもしれない。親の代わりができる人ということで選ぶ必要は無いと思います。
- 変わりはできないと思う。求める親もいるかもしれないけど、子育てをした親と言うのは見る目が違う的なこととか、ただ相手しているだけ、人によって違うんですけど、子どもの裏にあるようなということじゃないか。
- 感性の問題があるとおもうんだ。そういうところに気付く・気付かない。大倉委員がそういうところに経験をしたのであれば、ある意味いい経験をしたと思う。そういうものがあるということがわかっただけ。保育園とか幼稚園がどういうものかわからないけど。
- 何で阿南町は経験のある保育士さんがいないのか。
- 募集しても集まってこないし、今嘱託とか委託されている皆さんは、この時間帯にしか務められないと限られている。
- 初めからこの年代がいなかったという訳じゃないでしょ。
- 他のところではピラミッド型とか言うが、こういうような形ができているのが普通。
- そうはいっても中堅がいらない訳では無い。
- うちの場合は、中堅になるとみんなやめて行ってしまう。結局、主任だとか園長の近くなる年齢になるとやめて行ってしまう。業務の負担が大きくなるということだと思うんですけど。
- みんなそうになっていくということは、仕事の在り方に問題があるんじゃないか。
- 仕事に問題があるか、似合った代償が無いのかということか。
- 議員からも、なぜ保育士とか女性職員の課長職・管理職が少ないとかあるんですけど、議会の答弁にも言わせてもらったんですけど、その年齢になるとやめて行っちゃうということもあったので、職場に対する不満だとかというよりは、いろいろな責任を負わされるのが嫌だからというのが強いんじゃないか、と思っているんですけど。
- ほとんど地元の方々です。
- そうです。
- ということは通勤だ何だという距離的な問題でやめるというケースは少ない訳ですね。

- 飯田だとか町外の先生もだいぶ多くなっている。
- やめた人はそういう理由で辞めたわけではない。
- ずっと現場をやりたいか、教頭・校長になりたいかに分かれるじゃないですか。けどどトップに上がりたいわけじゃなくて。ほんとに保育士として関わりたいと要望がある中で、でも年齢になると管理職も求められちゃうと思うので、その前に辞めちゃうということ聞いたことがある。実際やめたけど、また復帰している人もいます。
やっぱ見ていると、若いお母さんたちに、どんと構えていると受け取り方も違うが、若い先生に言われるよりちょっと年配の先生に言われると、そうだねとなるのが中堅に求められることがあるので、園の中だけということもあるし、お母さんたちがどうしても年配の先生に意見を求めたくなっちゃうということがある。
- それならば、若い先生たちで面白くないとやめていくのなら分かるが、やめていくのは年配の先生たちでしょ。
- そう言うことでなくて、だから年配の先生は必要だということです。
- 若手の職員のサポートをしたり、先生たちが困った時にお聞きするなど、そうした人もお願いしていたが、だんだんその人たちも年になってきて。
- 行政としてやっていただくのは、計画的な人事・採用というものをお願いして、30前後が多いので、その時にだいぶ採用したのかな。だから、計画的な採用・人事をこの後も続けていく必要があるんじゃないか。
- 単なる委託とかそういうことじゃなくて、アルバイトだという位置付けを明確にして、そういう立場で採用をして、そういう人は現場の若い人たちに対して、指導が咳という位置づけする制度はできないのでしょうか。
- そうやってたんですよ。やっていたんですけど、上の人たちがいなくなっちゃったということです。
- やはりいると安心するんです。親も安心するし、子どもも安心する。
- その中で、先生たちだけではぎくしゃくしてきたということがあったものですから、先生をお願いして指導係をやってくださいとしてここ数年はやってきていて、この辺で何とか片付いてきたかという形で、あったり実際は上に立つ人の余力もなくなってきたかということです。今年も募集したんですけどないです。年齢も上げて40歳までとしたんですが。
- そういう形でしたら50歳でもいいんじゃないですか。年齢問わずに。
- もうそのくらいになると、正規はよくなるな、臨時でお願いという事で。みんな今そうだ。
- さっきの学校の先生とかは途中で、上がるとか上がらんと言うのを自分で選べるというのは、保育士さんとかはできないのか。園長とか上がるのではなく、そのままいたいというのは可能ですか。

- 町長の考え方次第だと思います。
- 結局、園長先生は岡田さんがやってくれるので、実質そうなっているということですよね。そういう人が事務的なことは嫌だからと専門に置いてあるということで。これから先考えて行かないと、今の30代の衆が同じことになってしまうかなということ。
- 今局長が園長兼でしているというのは苦肉の策なんですか。そういう訳でもないですか。過去にもあったんですか。
- 過去にもありました。民生課に保育園長がいて、園長職がいて各保育園にも園長というか主任クラスがいて、それで事務的なものは園長がやるという形でした。
- ここ何年かは保育士さん上りが園長でいましたよね。ああいう姿が普通で、今の岡田さんが園長というのが異常事態かなと思っていました。
- 別にそういった年代が上がったから園長だという事でなくて、その時その時の考え方によるんですかね。うまくその年代にやめられる前に園長になって、次の人が又来るといううまい具合に、新人たちができていたということもあります。だから保育園でやりながらこっちへ来て事務をやって、申請から予算から全部やったりで大変だったんですけど、やはり。
- 理想的は理想的だ。だんだん上がって行って園長になるっていうのが普通なんだけど。だけど教育職と言うか、保育士さんが事務をやるというのはダメだ。無理だとかできない。即やれと言ってもなかなかできない。そうかといって今岡田さんのような立場で、園長をやっているのは、今度内容の面で非常に大変だと思う。ほんとに保育士さんを全部指導しなきゃいけないんだよ。適当な会議に出なきゃいけないし。
- ぎくしゃくしたことは内容的には、なぜ事務をやっているような実務を知らない人が園長をやっているのかという意見はいろいろあります。大変難しい所ではあるんですが、現状でも保育士の数については、募集をかけているんだが、もう1回2次募集をかけなきゃいけないかと思います。
- さっき教育長が言ったように、計画的に募集をかけながらというのが欠けちゃったということですかね。途中の年代がいなくて、計画的に保育士さんが採用されていて、年を重ねて40代50代がいるべきで、そこが抜けているというのは採用をしてなかったのかなと思う。
- 計画的な採用はなかったのかな、一時期かたまっていたでな。うまくつながっていなかったということだ。いる人もおるが、もう正規は嫌だということだ。
- 事務がね、予算関係から申請関係からいろいろ見ちゃっとるから。
- 前の保育士上がりの先生にしても事務方にしたら半泣きのようでやっていたが、2年もやったら治った。昔の人間だから黙ったこともあるが、今の若い人はそういう話ではない。
- 松本大学の教育学部ができていし、養成学校もいっぱいあるので、ぜひ男性職員を入れていただくと空気も変わるのかなと思います。

- 結構男性保育士と言うのは居るのか。
- そうすると20年くらいのギャップがあるのかな。60歳定年で見たときに今30歳半ばということなら、ということは20年くらいその間の人がいらないということになる。
- 3人くらいいたのが、その間の人がいなくなっちゃった。やめちゃった。今臨時でいるけど。
- 今臨時でおられる人がみんな昔おった人だ。
- その間にもおった。我々が入った時にもいっしょにおったが、みんな嫁って出て行っちゃった。
- 今欲しいというのは即戦力が欲しいんでしょ。中間管理職的な。
- 3年くらいやるとだいたいわかるな。3年くらいやると外部のこともだいたいわかって来るし、保育内容だって言えるようになると思う。
- 今の若い人たちが管理職にならなくてもいいシステムにしておかないと、やめられちゃうので、結婚しても保育士を続けてもらう事やら、将来的には事務をやる園長さんがいるという安心感を得られるように。もったいないので流失しないように。
- 居ってもらうというのを考えると、昔みたいな夫婦で居ってはダメと言うのはもうないんですか。
- このあり方検討委員会の時にも出ていたんですが、保育園は職場に近い所にあってほしいというのが、要望としていっぱいあったと思うんですが、子どもたちの人数も減っているんで、それぞれの園で年長児、年中児、年少児というくくりは取っ払わなきゃいけない時代、縦割りの一つにして全体で見るという現状はどうなのか。
- まだ、大下条・富草については10人以上いるので、新野だけが取っ払って5歳4歳がいっしょにいたりとかで、一緒にやっています。
- 現実には区切らなくてもできるという、そういう意味での充実とか、そういうものを検討して行かないと。
- それは4年前からかな、年長でいうと1人なので、1人でいると「友達と仲良くしよう。」自体も、友達がいなくてわからない世界になってしまうので、少しだけ他の子どもと一緒にいて、喧嘩したり取りあったりということが出来る環境にという事で、一緒にやらしている。
- それをきちんとした形で、人数が少ないから急ぎょやるのではなく、初めから縦割りと言うようにガンガンやれるように、それこそ資質の向上で検討をして、やっていく時代なのかなと。
- だけど学校へ上がる年はその年ごとに上がっていくのでそこは難しい。
- 異年齢も善し悪しで長所短所がある。たまには異年齢の上下関係で面倒を見られたりするのでもいいのだけれど、適時性と言ってその年代でないと身に付かない・付けさせた

いことがあるので、それが一緒じゃやりにくいという長所・短所がある。そこら辺が難しい。

- 保育士さんの数が少なかったりして、3つの園があるから保育士さんの専門性で配置できるようにしたら、余計に縦割りでできたらと思う。
- 単純な質問なんですけど、保育士の給与って悪いんですか。
- 今国でも保育職の給与を上げろと言っているが、一般職より教育職というのは高い。県も国も。だけどここは一般職と保育士さんは全部いっしょ。そういうところはちょっと違う。
- 今度組織的な、きちんとしたピラミッド型と言うか、年代がばらつかない様に雇っていくと言ったら、たぶんそのあたりの話は付いて回るような気がする。
- 昔の合併論議の時には、保育園は民営化したらどうかと言うことで16年当時、そういったのでシミュレーションして、保育士の給与が民営化すると何千万などと検討したこともあります。それは試乗に揚げる前に落とされましたけど、どのくらいになるのかと出たこともありました。
それでは時間もあれなのでどうですか。「人口減少地域に対する学校・教育環境のあり方と方向性について」今言われました、ベテランと若手のバランスの良い職員採用なり、職員の採用計画が必要ではないかという事でありました。それから特に保育士の資質の向上で、自分でまだ子育てを経験したことのない先生が多い中で、もう少しそうした面も踏まえて、個人の資質向上を図り、研修の場を多く持つとかいう面の意見もありましたので、その辺意見として役立てていければと思います。
- その今の人口減少に関わって、南部の教育長会と言うのも今年度は2回目を終わったところだが、その辺教育長会でも人口減少・教育環境のあり方について、意見交換をしながら段々と前に向いている次第であります。その会議のなかで、教育環境に関わる意見交換・問題点について、南部で意識統一して行こうというのが一つと、それにも関わるんだけれども部活動のチーム（合同チーム）についてどういうふうに考えて行こうかという事で、話をさせてもらいました。これからは言うまでもないが、学校単位じゃできない時代が来ますので、南部は南部の中学校あたりで合同チーム、運動部だけじゃなくて学芸部まで、考えていく必要があるんだという事で、今は野球の問題で県とのやり取りをしています、県の中体連と、県の校長会又は、地域の校長会と教育長会と合わせて話し合いの場を10月の18日に持つようになっていますが、そんな中でも教育環境のあり方、それから部活動の合同チームのあり方について、話を進めて行くことになっていますので、ご承知おきいただきたいと思います。
- 今度来年からは阿南高校の野球部も辰野高校と合同で。
- それは秋だけ辰野高校ともう一つの高校と阿南高が3つ集まって出るとのこと。ただ来年になると、1年生が10人くらいはいてくれるんじゃないかという、そうするとまた単独でできる。そういうことだって。
- いずれにしても、全て影響が出て行く。
- サッカーも阿智と阿南高が一緒になって出て行っている。そういった面ではこの教育環境のあり方だとか、全てが人口減少が根源になっていますので、そうした意味で教育

環境のあり方、統合問題等おおきな岐路に立たされておるといえることが言えます。それでは「(2)の学校におけるICT教育について」でございますが、これについて説明をお願いします。

- 村山係長<ICT教育設備の検討についての資料にもとづいて説明>
- 2018～2022年度まで、単年度で1,805億円の地方財政措置を講じると書いてあるが、くれるということか。
- そうです。交付税で見てくれるということです。
- 見てくれるんだけど、交付税で全部でボソッとくれる中に、全国で1,805億円はいつているという事で、そこを使うと他のところへ使えなくなる。全体で1,805億円で阿南町も割ると1校当たりいくらかと出るが、全体のなかで交付税が減られ、パイを削られてきてくるので、そこでそれだけ使うと他のところへお金が回らなくなるということ。
- 意味はわからないが、町内に6校もあると回らなくなるにと言われる。無理だ。できっこないと言われる。「義務教育なんか国がやれ。」と言っている。小さい団体は何年から年々までと言われても無理だ。国だってそこらべったりで災害が起きて、金がいってそれどころじゃない。文科省への配分だってそうなる。こういうふうにやればいいと言っても無理だ。
- 学校側でも実際に先生たちが対応できるのか。全部が全部。
- 学校の先生の中にも、すごく得意な先生と先生とそうでない先生がいて、詳しい先生はそういうのを利用して現在やっているが、今度授業でパソコンを使って教えると言った時に、いきなりと言うのは無理なので、今から少しずつ研修会とかやりながら、先生たち準備をしているんですが、100%コンピューターを使った授業になるかと言うとそうではないので、今までの普通の黒板を使った授業の中に、一部パソコンを取り入れた授業になっては行くんですけど、先生によって方針は違いますので、違いが出る可能性が無いとは言えない。
- 何もかもいっぺんにしても無理なんだに。喬木の村長が言っていたが、喬木だってNECの社員が常駐しておるんだって、先生に合わせて。それは誰が出しておるか聞くと、喬木で出しておるんだって。ちっとばかの金ではない。そういうのを含めて6校なんてできる訳ないというのが喬木の意見だ。それだがこの期間にやれと言われても、できないところが出て来るのではないか。実際の話。どういうふう考えておるのかな、前から分からない。
- 現場の繊維はすごく大変だと思います。新たに覚えなきゃいけないが増えるので。
- この間現場視察しても、担当の先生は四苦八苦しておる。50幾つかの先生がわからないのに一生懸命になって、そうすると横にバリバリの人がいてああだこうだと教えるので、大変なことだ。
- 喬木みたいに、先行的にどんどんやるというようなことは考えてないし、最低限今説明のあったように、セキュリティーと無線ランで各教室で使えるというくらいは、タブレットを1人1台なんてことはない。もし使えるならば、基本的なことが使えるまでは整備を整えておきたいなと言うところだ。

- 3クラスに1クラスが使えるまでの整備をなささいということでしたよね。1クラスしかないのなら1クラスができるくらいは整備なささいということですよ。
- パソコンを使う使わないというのは、先生たちの世界ではあまり進んでいない事なのか。
- 個人差があります。
- 民間だとパソコンに触れないと仕事にならない。そういう話しは出て来ない。
- 自分一人ではパソコンは扱うが、いざ授業になると一人ひとりの子どもとパソコンを通して授業をするということはしていない。パソコンはできなくはない。
- そうすると、機器が揃うと多分そんなに抵抗なく入っていけるんじゃないかと思うが、違うのかな。
- ただタブレットを授業で使うか使わないかは、違うじゃないですか。
- 使うか使わないかじゃなくて、使いこなせるか使いこなせないかで、キーボードをたたこうが、タブレットをたたこうが、電子化された仕事の処理の仕方を慣れている人にとって見たら、そんなに苦になることではないと思う。新しく覚えなきゃいけないことは、無い訳はないんだけど、全然いままでキーボードを触ったことがない人に、タブレットに触れと言ったら抵抗があるでしょう。と思うんだけど。
- 先生たちが授業で教えるために使うのは簡単だと思うが、タブレットで子どもにやらせるとなると、教材があると思うがかるのではないか。
- これはお金をかけるかかけないかということがあるじゃないですか。3,000万円も年間掛かることだし、ランニングコストって3年目になると全部加算されて行く訳でしょ。1,500万円が毎年出ていくという話ですよ。その財源をどうするかということにすぐ行っちゃうんですけど。
- それは全部国でくれるということなんだから。くれればいいよ別に。
- 地方交付税が阿南町に、例えば5億来るうちの、何千万円というたてまえはあるが、札束を分けていないということですか。
- 各町村やはりパイがあるんですが、1戸あたりいくらというのがあって、交付していくんですがね。標準的な経費として。
- だったら一戸あたりいくらで別に交付してくれればいいが、井にいっしょだったらね。
- どんぶり勘定なんですよ。その積み重ねが阿南町は19億はやりますということ。
- こういうのは親にしてみりゃあ、町がそれなりの基準で、きちっとしたものを作ってくれにゃあ困っちゃう。うちの子が遅れちゃうということになる。時代遅れになっちゃう。ここおっちゃんあしょうがない、と言うのを加速させることだに政府として。そう思っている。将来優秀な子になったもらわにゃあと思う親として。ここにいてはしょうなくなるから、銭が無くてもやらんらん話になる。

- 社会へ出て行って、パソコンやタブレット使うのに苦労をしない、普通に使える、そういう子を作ってやればいいんだ。
- 年間の授業を見ていると、パソコンで授業をできるのは何10%のような話で、そんなレベルで、それをもう少し上乗せしてと言っているけど。
- こういう設備をして、こういう授業をなさいと言う指針はあるのか。
- あるある。プログラミングとかあるが、そんなこと教えてわかるのかといたいくらいだ。
- ただ親の希望は、プログラミングの希望は多いし、今小学生の習い事のトップはプログラミングなんですよ。水泳でも何でもなくて。プログラミングがトップなんです。
- それは都会の話なんでしょ。
- 都会の話ですよ。でも都会の話の割合が高くなるので、そういう話しになっちゃう。それで、子どもたちは出て行くと、そういうところで育った子どもたちとやらなきゃならんのです。
- そこで差が出ないようにするくらいの。
- ことをやれと言うと相当のことをやらんならん。
- これで小中学校6校を整備しましたということでも、高校へ行きましたというときに、ICTを全部整備するところが、阿南高校と長姫くらい、まだあとの高校とかはいつ整備するかわからない状況ではあるみたい。阿南高校だけは整備するというので決まったみたいですけど、売りができたのでうれしいと言っていましたけど、高校へ行っても使うところがないとか、金がないからまだ配分できませんという状況下で、こんなことで進めちゃうのかなと思う。
- まだ整備で来ていないのか、何だか知らんがパカパカ打っちゃやっとなるじゃねーか。
- たぶん先生よりはよっぽど使えると思う。覚えるのもはやい。何にも教えなくても自分でやってっちゃう。そういうものに違和感のない世代に、そういうものに違和感のある先生たちが教えるのがギャップがあって大変だと思う。ただ、私たちがパソコンを使い始めた時には、ものすごく簡単な、例えばお客さんから注文が来たやつをインプットして、工場で見れるようにしてというレベルからだったけど、それをやり始めたのが30台の半ばくらいだった。そのうちそういったものを使わないと、そういうシステムで運用されるようになって、キーボードが日常的に机の上にあるような時代になってきたので、ホントにそういう環境に放り込まないと、放り込まなくて済む世界にいるとたぶん身につかない。
- 必要がなきゃそうですね。
- 国の文科省だかがやれというのは命令なの。
- 新学習指導要領にのっかって、授業なりしてかなきゃならないから、それに乗っかっているからそれは命令だな。

- 命令だな。厚労省が阿南病院のベット数を減らせというのと一緒だ。それも実施せんならん。下伊那広域の中のベット数を全体で賄わんならんそれと一緒にだ。えれいことだ。
- 最低限でぜひお願いします。高望みはしませんから。
- そうすると、8月31日から検討会になってくると思いますが、そういうので協議をして、31年度の予算の計上していくということだな、どういうかっこうなるか。30年度は補正でやっていくという話だが、まだ方針が決まってないので、12月までには決めてもらわないとしょうない。
- 財政線がいいということ無いが、うちの考え方とか整備方針が、国で言っているもので言うことを聞かんならんけど、それに逆らってばかりおれんことでは、最も一番有効なそしてまた金額的にも抑えてもらう考え方はどうかということ考えて、しっかりとらまえてもらって、その上でこういう形でというのを考えてもらわなければ、しょうないと思う。介護保険の第何条の方法でやりなさいというのと一緒だ。ベット数をいくら減らしなさいというのと一緒だ。みんなそういうやり方だ。
- 31日の学校との相談の中で、どうやっていくかということで、決めていただいて予算取りをしていくとなりますのでお願いします。
- 環境整備だけを12月議会の補正予算に出すのか、6校のLANとかそういったものをやるのか、新年度でいっきにやっちゃえるのか検討してもらって。
- セキュリティーとLANの環境だけは一番最初に、システムを作ら前にというか、そこからやっていきたいと思う。あくまでも計画ですし、学校の先生の見解もありますので、これについては翌年度でいいとか、これは先にやってくださいとか出てきますし、国の方でもネットワーク分離だとか、こういうものを整備してくださいという台数のこととか、人数が減ってきたりしていることもあるので、台数が何台かわかってきますので、その辺の数も見極めながら、ネットワークの分離も物理的に分離するのと、システムの分離するのといろいろあるようなので、この間、展示会等で業者の説明を聞く中でいろいろあるようですので、またどんどん変わってきているようですので、その中で国の言っている基準をクリアできるもので、安くできるものがあれば、そういったものを入れていく中で費用を安くできればと思います。
- そういう中で教育長。統合の問題で温度差はあるにしても、それが数年のうちに実施できれば、数年我慢していても、数年後にいっぺんにやるという、統合したところへという考え方はできんかな。
- ちょっと遅い。それまでにはちょっとできない。32年までには。
- 俺の言うのは、3年後なんだが2年待って3年後にはやるということなら、売木だって天龍だって助かる話なんだが。そういうところも考えにゃいかんのだと思うんだに。未だに旧村単位の意識が取れないもんで、そういうところは非常に難しいんだ。
- 例えば台数を、統合とかを見据えて少なめの数に抑えておいて、統合した時に国が言う3クラスに1クラスに結果的になるようにと、そういう考えもあると思います。例えば共用できるものは共用で使っておいて、統合してもいいようなシステムを考えると、そうしていく方が無駄は少なくなると思います。

- だけどセキュリティーとかLAN整備とかは全部やらんならんな。
- 統合まで待てないところはちょっと出ちゃいます。
- これは6校の合計金額だよな。(そうです。) 統合ができれば減りますよね。
- 半分にはならないけど減ります。
- まあここで結論を出すということにはできないですけど、ICT教育は国の方針がなされて、町内の教員におかれまして検討委員会も31日から開始することになっておりますので、またそれらの情報提供につきましては教育委員の方にもしていただいて、どちらにしても、統合問題・ICT問題、両方とも絡んでくるわけでございますけれども、こうしたことがあるというのもご承知いただき、経費のかからないシステムを作ることと考えて行かなければならないということでもありますので、よろしくお願いをします。
町長はこれから二中の職場訪問が始まっていますので、4時までそちらにいますので、その他としまして何かございましたら、ご意見をお願いしたいと思います。
- たまたま知り合いの人で、子どもを産んでその同級生が少ないということで、阿南町から違う地区に移られたのを見た時に、しょうがないのかなと思うことがありました。
- 今年、母子手帳が出ている人が22人、7月末までに7人生まれて、15名が母子手帳を持っている。去年が21名で、去年かっこのなるかと思います。
- 町内全部合わさっても22名ということですよ。(そうです。)

6 閉会

○ 司会松澤総務課長

それでは、ご意見を頂きまして、ここで結論を出せるものばかりです。今後情報交換を計りながら、新年度予算へも反映していかなければなりませんし、また教育委員のみなさまからご意見をいただかなければならない問題ばかりでございます。いろいろな面につきましてもご意見・ご提案をよろしくお願いしたいと思います。

それではこれで、平成30年度第1回阿南町総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

＜15：05閉会＞